

第7回
2008年



サラライイ大賞

発表

サライ世代にとって、優しく便利な商品、価値あるサービスなどを、選定・表彰する『サライ大賞』。今年で7回目を迎えました。

CD・DVD部門賞

審査員/黒田恭一



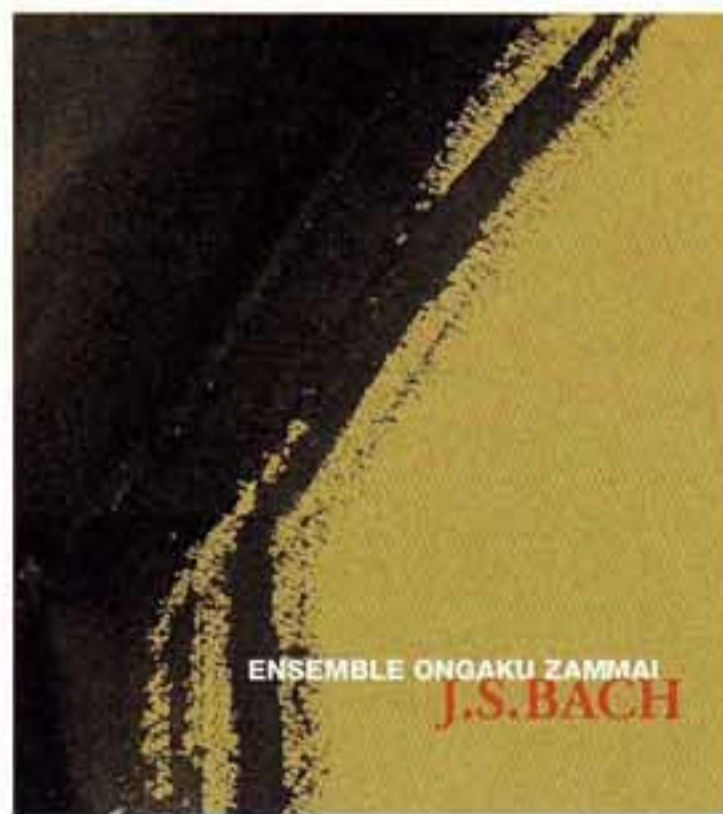
←くろだ・きょういち 音楽評論家。昭和13年、東京生まれ。早稲田大学卒業。毎週日曜放送のNHK・FM「20世紀の名演奏」も好評。著書多数。



↑アンサンブル「音楽三昧」は、5人の古楽器奏者のグループ。ほかにラベルやドビュシーを編曲したCDなども好評発売中。

「バッハ―パッサカリアほか」演奏/アンサンブル「音楽三昧」
発売/レグルス 2625円

←バッハのオルガン作品を、室内楽に再構成。曲の骨組みが鮮明に浮かび上がり、繊細で時に劇的な音づくりが、聞く者の胸を打つ。



だということ、あらためて思わせてくれる。名人志ん朝の至芸にふれて、視聴者は至福の時を過ごすことができます」

2作目は、カラヤン指揮による『歌劇 カルメン』（13号/08年7月3日号掲載）。レオンタイン・プライス（ソプラノ）がカルメンを歌い、ウィーン・フィルが演奏する往年の名盤を、SACD（※）として復刻したものである。

↑平成13年、63歳で逝去した名人による貴重な映像。『文七元結』『火焰太鼓』など選りすぐりの22席が仕草とともに鑑賞できる。

ビゼー作曲
『歌劇 カルメン』
演奏/カラヤン指揮、
プライス(ソプラノ)ほか
発売/BMG JAPAN
1万500円(3枚組)

←昭和38年発売のLP盤を細心の注意を払ってSACDで復刻。名盤の復刻とはこうあるべき、という模範のような仕事、と黒田さん。

BOOK部門と同じく、本年より新設されたCD・DVD部門賞は、3作品の受賞が決まった。

まず1作目は、「サライ」11号(08年6月5日号)「続々落語入門」で紹介された『落語研究会 古今亭志ん朝全集』。本作について、選考にあたった審査員の黒田恭一さんは、次のように授賞理由を述べる。

「絶頂期の志ん朝が、絶好の条件で演じた名作の数々が、周到な準備のもとに収められています。DVDによるアルバムだけに、落語が耳で味わい、目でも楽しむ芸能

「旧録音が、バナナの叩き売りさながらに乱暴に売られる時代の趨勢に対し、名作の名演奏は、それにふさわしく丁寧な、愛情をもって再発売されるべきであると、音質、パッケージの両面で主張して、一矢を報いたアルバムといえます」

そして最後は、室内楽のアンサンブル「音楽三昧」による「バッハ―パッサカリアほか」(7号/08年4月3日号掲載)。

「バッハのオルガン曲を果敢に解体。新たな生命を吹き込んでみせる、鋭利な感覚と高度の技に思わず息を飲みました。音楽三昧の五人による、痛快無比のバッハです」

懐かしさのなかに新しい発見がたくさん見つかる、「温故知新」の3作品が、受賞作となった。



『落語研究会
古今亭志ん朝全集 上』
発売/TBS
販売/ソニー・ミュージックダイレクト
3万1920円

